

令和3年度各職員による自己評価結果・改善策

子育てセンターさやのもり

I「重点目標」についての検証結果及び改善策
振り返りシートを確認することにより、カンファレンスや個人的にアドバイスをを行うよう意識した。 子どもたちへの主体性については常に考えているが、職員へはこちらから言いすぎてしまったり、決定したことを伝えることが多くなっていた。聞く姿勢・雰囲気作りを課題としている。
常に「重点目標」を頭に置いて保育できるようコピーをデイリーノートに貼り、目につくようにした。各クラス的环境が整っているか、様子を見たり職員に声を掛けたりするようにした。もう少し細かくアドバイスができるよう、保育に入る時間を確保するようにしていきたい。
毎月の振り返りシート作成時にグランドデザインを見返している。又、次月の保育への取り組みにも反映出来るよう意識をしている。
半期ごとに目標を掲げ、毎月振り返りをする中で、常々意識をすることができた。 自分自身の保育を振り返りながら、反省を基に翌月の保育で意識した。
毎月の反省を行うことで、自分自身の保育を振り返り反省し、次に繋げていけるよう意識をしたり関わることができたのではないと思う。
毎月の保育の振り返りの冊子への記入をすることで、重点目標に対しての自己の取り組みがどうであったか、確認をすることができた。 文字化することで具体的な反省点も自分なりに意識することができるようになった。 また、園内での研修での取り組みにより、他の職員の考えなども共有することができた。
重点目標を理解して保育に反映させていくことが出来た。
重点目標より、自己肯定感を高めていく環境について、研修・カンファレンス等で学び、自己を振り返り、人的環境の重要性を改めて感じ言動の改善に努めました。日頃の保育の中で、小さなことを認めることを積み重ね、自分の存在意義を持ち、自己肯定感を高めていけるよう行動していきたいと思えます。
重点目標を見返し、クラスに入る担当職員と具体的にどのようにして保育に反映させるか考え、今後努めていく。
春の研修で入園説明会で使用したパワーポイントを見ながら保護者の目線で園長の話を書くという実践を通してより重点目標についての理解を深めることができた。重点目標を達成させるため、担任や他職員との連携を大切に一人一人の発達に配慮した教育活動を行った。引き続き、担任や他職員との「報告・連絡・相談」を密にして思いをそろえて教育活動を展開できるよう心がける。
子ども一人ひとりを取り巻く環境に温かみを感じられ、自分大好き、友だち大好きと思えるように関わっていった。また、自分たちから主体的にこのような環境を作り出せるよう配慮や工夫、援助をしていった。
園の重点目標を理解し、実践したり計画を立てたりすることの意識が表れていると考える。 今後も、引き続き取り組んでいきたい。
重点目標を理解し、達成に努めている。
全体の重点目標を自分にあてはめて課題を見出し、目標を立てた。毎月振り返りシートで振り返ることで、課題を可視化し日々の保育の見直した。
概ねできていたが、常に意識して保育することがあまりなかったもので、しっかり意識していきたい。
重点目標を理解し、他の職員とも確認しあいながら達成できるよう努めている。

重点目標については、理解しているが見直したり振り返ったりすることが少ないため見直したりしていきたい。

重点目標を理解し、自分自身で定めた目標も見直しながら達成できるよう努力をした。今後も目標をもとに反省点や改善策を考えていきたい。

子ども達に「生きる力」ができてきたと感じる事に喜びを感じました。目標に沿った、目標に向かう保育ができていたと思います。

II「保育の計画性」についての検証結果及び改善策
教育・保育の計画・反省・活動の様子を確認・把握し、子どもたちにも職員にも声をかけることを意識している。
クラスカンファレンスや学年会議を毎月一回必ず行い、必要になればリーダー会議を入れ、保育の反省や行事に向けての計画・準備を行った。トイレの汚れを見つけることが多い為、こまめにチェックし、清潔を保てるようにしたい。
指導計画は重点目標に基づき、連続性かつ子どもの姿や季節に合った内容になっているかを意識し、確認をしている。又、指導計画を元に各担任と活動や子どもの姿を共通理解するように心掛けている。
年長児クラス対象の様々な行事がある中で、事前に見通しが持てるよう計画をし、子ども達が安心して活動に取り組めるよう写真などの教材や言葉で丁寧に伝えることを心掛けた。今年度よりこども園になり、幼保連携をする中で行事などの計画を立てる難しさを感じることもあった。事前に見通しをもち、話し合いなどの時間を設ける必要があった。
子ども達が安全、安心して過ごせるよう、部屋の環境を整えたり、また園児の様子について保育教諭同士で情報を共有するようになった。
今年度”こども園”化したこともあり、幼・保の保育方針のすり合わせをより意識して行うようにしたが、まだまだスムーズに共有していくまでに時間を要する。指導計画の活用、環境構成等、他の職員との話し合い、連携の機会が必要である。
子どもの発達に応じた計画を心がけた。保育の環境を子どもの姿に応じて工夫することが出来ると良かった。
日々の保育を振り返り、カンファレンス・振り返りシート等通じ、改善・向上に努めてきました。職員同士情報を共有し、職員の配置・バランス・子供の対応等、連携し円滑に活動が行えるよう取り組んでいこうと思います。
幼保連携型認定こども園に去年、変わったが教育・保育要領を参考に読んでいなかった為、取り入れていきたい。
計画の作成は主ではなかったが、練る段階では提案や意見を述べられたので、その際は園児の実態や関心を配慮した内容やグランドデザインや重点目標を意識した内容となるよう心掛けて、提案及び意見してきた。主担任との連携の仕方考え、保育の実践ができた。今後もそれらを意識して計画していこうと思う。
子どもの今の姿を踏まえて指導計画を作成していった2ヶ月先のことを計画していかななくてはいけない為、事前に見通しを持ち取り組んでいった。保育の反省はカンファレンスや月の反省等で見返し、助言を受け次に活かせるようにしていった。
保育内容や園行事の取り組み方などについて、他職員から教えてもらい進めていくことが多くあったと感じる。今年度、学んだことを次に活かし、子ども達に適した保育計画を立てられるようにしたい。
指導計画は、こども園教育・保育要領や教育課程を意識し、考慮している。子どもが楽しく安心して活動が出来、過ごせるように環境、換気、室温など配慮をし、清掃に心掛けている。
こども園になったことを意識し、幼保での学年の話し合いを大切にして日々の保育に取り組んだ。
概ねできていたものが多かったが、こんな保育を提供したいというものをかたちに出来なかったものもあるので今後に活かしたい。
指導計画をもとに保育がすすめられるよう環境を整えている。他の職員の保育を参考にしつつ、自らも手本となれるように努めていく。

保育室の装飾があまりできていないように感じる。少しでも季節を感じられるような装飾を考えていきたい。

指導計画の作成の際、環境構成についても配慮して作成するようにしていたが、すべてを実行することはできなかったので指導計画をもとに環境構成を再度考えていきたい。

いろいろな職員の保育があり、それらを合わせてより良い保育の計画、環境ができていたと思います。一方で情報の共有、計画の話し合いの場が少なかったと思います。

Ⅲ「保育の在り方、幼児への対応」についての検証結果及び改善策

子どもたちの姿・表情から教育・保育の主体性や職員の対応が伝わってくる。
同一文献での学びも日々意識し、活かせるようにすることが課題である。

友達同士のトラブルも成長過程の一つと捉え、双方の気持ちを確認し、相手の気持ちも少しずつ推し量れるような声掛けを工夫した。季節に合った小動物や植物などを玄関などに飾り、季節感を味わえるようにした。引き続きその子の特性を把握する努力をしていきたい。

子ども一人ひとりと関わり、理解を深められるよう努めてきた。今後も各担任と一人ひとりへの理解を深め、関わりや援助等を共にしていきたい。

子ども達が楽しい園生活を過ごせるよう、一人ひとりの姿に合わせた関わりをしながら保育を進めた。年長児クラスということもあり、子ども達が主体的になれるような言葉かけや保育の計画をした。子どもと一緒に楽しんだり、喜び合ったり、時には悩んだりしながら保育を進めた。

子ども達の主体性を大切にすることを意識し、子ども達自身が考えて行動できるよう、すぐに声を掛けるのではなく、様子を見守ってから関わるようにした。今後も丁寧な保育を心掛けていきたいと思う。

年長児担当ということもあり、「育てたい10の姿」を意識して各領域での指導を行っていった。特に「人間関係」での領域での取り組みは個々に丁寧に関わっていけるよう機会を作っていった。
学年間での情報の共有を大切にしていたが課題が多い。

子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な保育を心掛けた。
個に応じた対応の大変さを感じた。

子供への対応については、子供の気持ちに寄り添い受け止め、相手に気持ちにも気付けるよう援助してきました。遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供できるよう、子ども達の姿をよく観察し、遊びを発展させていきたいと思えます。

園児一人一人に寄り添い気持ち、言葉を受け止めるよう心掛けた。相手に伝えて嬉しい言葉、悲しい言葉を絵本を通して園児たちに知ってもらおうようにし、言葉の大切さ、相手の気持ちを知る大切さを保育の中で伝えていった。また、異年齢交流が少なかった為、増やしていく。

「表情・言葉・行動」の3つに分けて、常に自分はどうかを振り返るようにした。
春・秋研修でも保育の専門家としてふさわしい態度や言葉掛けについて学べた。学べたことは保育に取り入れることを意識した。今後も子どもの心を尊重した言葉掛けをしていきたい。

個々の力を見極め、一人ひとりが成長できるよう丁寧に関わっていった。
食育について夏はきゅうりを育てたりで取り組んでいたが、冬は野菜を植えることができなかつたり
今年はクッキングもできていなかったりで食育についての意識が低かったように思う。

異年齢児の関わりはあったが、他職員の声掛けで行われることも多くあった。散歩や戸外遊びなどで、率先して年下の子と関わられたり、年上の子に憧れの気持ちを持ったりできるよう考えていきたい。

子どもへの言葉掛けに配慮しながら、時に禁止、命令になってしまうことがあるが、職員(担当)の言葉がけが的を得的確である為、勉強になり、参考にしている。

子どもたちが発見し気付いたこと、知りたいと思ったことから、保育を展開し、子ども達が主体的に遊びを広げていけるように、ペアの先生と話し合っ工夫した。

自分の出来る範囲ではほぼ出来ていたと思う。その中でも人の役に立つ喜びを味わうという項目では少し薄かったように思うので子ども一人ひとりが輝ける活動を考えていきたい。

子どものモデルとなれるよう、健康に気を付け体力をつけていきたい。
思いを十分に受け止め、励ます、褒めるなどの言葉をより多くかけていく。

飼育物を設置していたが図鑑は設置できていなかった。興味関心をやイメージ・体験が多く出来るように考えて設置していきたい。

3歳児は当番活動がなかったため、4歳児の進級に向けて当番活動を意識した活動を少しずつ行っていきたい。異年齢での活動をもう少し計画し、実行していきたい。

愛着関係に問題を抱えた子、丁寧な対応を必要とする子への関わりを学ぶが、実践では難しいと感じる事がありました。また、他の園児に対してじっくり話を聞くなどのゆとりのある時間があまりもてなかったと思います。

IV「教員としての資質や能力・良識・適性」についての検証結果及び改善策

職員からの相談等に手を止め、聞くこと、的確なアドバイスをすることを意識している。
対応への公平さは園児・保護者・職員への声の掛け方、態度も常に意識し、努力すべきことである。

人として大切な、挨拶や平等性などは常に大事にしている。自分で決めてしまわずに、上司に報告・連絡・相談をするよう心掛けているが、一度自分で考えて意見を持ったうえで相談などするようにした。これからも、周囲の意見も柔軟に取り入れていくようにしたい。

自分の立場を常にわきまえて言動や行動に気を付けてきた。今後も質の向上が出来るよう、意識し取り組んでいく。

運動会などの課題がある行事や日々の生活の中で、発達の段階や子ども達も持っている力にあわせて保育することの難しさを感じるがあった。保育で悩みがあった際には同じクラスの担任同士で悩みを共有し、同じ思いで保育を進められるよう話し合いを重ね、周囲の先生方に相談することで子ども達にとってより良い保育ができるよう考えた。

子ども、保護者、職員に対して、気持ちの良い挨拶をすることを意識し、行った。
体調を崩してしまうことがあった為、体調管理に気を付けていきたい。

保育教諭としての良識は常に持ち、いつでも園児、保護者に対して温かく接していけるように心掛けた。保育の中で、生活や遊びを通して子ども達が成長していく様子を保護者の方や職員と喜びを共有できることが何よりも楽しみであった。

経験を活かし、保育で実践していく事を心掛けた。

組織の一員として、マナーを守り、他の意見を素直な気持ちで聞き、自分の意見を述べるよう意識し、保育の質の向上に努めました。園内研修で学んだ子供との関わり方等を実践し、自分の保育に活かし改善に努めていきます。

園児たちのお手本になるように自分自身の身だしなみや気持ちの良い挨拶をするように努めた。私もさやのもりの一員と意識しながら担当行事等、責任もって行った。

自分の不足している能力を知り、改善する努力をしている。今年度は「報告・連絡・相談」を密に行うを主なテーマにして取り組んでいる。他職員との関係づくりにおいて反省点も多かったが、具体的な欠点が分かったり自分を変えるきっかけになったりと色々学べたので今後にかかして行く。

自分が楽しんで保育することを大切にしている。また、私一人では保育できないので職員との連携を意識している。また、子ども達が一人だけの保育者の感性と触れるだけではなく、様々な職員の感性に触れられるよう心掛けている。

初めてのことが多い一年で、仕事の手順を教えてもらい、実践していくことに精一杯だった。様々な仕事内容に触れ、学びを深めていくことができたと思うので、その年齢にあった内容や活動を工夫していきたい。

自分の意見を述べることに苦手意識がある。苦手を克服する努力をしている。

同じ方向性で保育、教育を進めていけるように意識した。これからも仕事の手順の確認をきちんと行っていきたい。

四季や日々の中から子どもたちと一つひとつ生活を作りだしていけたと感じる。係りの仕事を時々忘れてしまうことがあったので気をつけた。

準備の大切さを行事を通して痛感している。手順をしっかりと考え、他職員と連携をして丁寧なしごとをしていきたい。

自分の意見をこの一年あまり言えていない。述べられるようにしていきたい。仕事の手順を見返し効率よく仕事ができるように工夫していきたい。

自分の意見を述べるのが苦手な相手や意見に流されてしまうことが多くあったので、組織の一員だということを意識して積極的に意見を述べられるようにしていきたい。

研修などで自分の知りたい、身につけたい分野について、いろいろ学ぶ事ができました。反面、それを保育の中で十分に発揮できず、手順よく保育を進める事ができないこともありました。

V「保護者への対応」についての検証結果及び改善策
子ども園になって変更点等伝えていたつもりでいたが、わかりにくかったのかと反省する。また、保護者からの要望や意見を園長へお願いしてしまっており、自分で考え、自分で判断する力を必要とする。
保育部保護者には貼り出すことで伝わる内容が、幼児部保護者はバス通園の子もおり、チェックインメールなどで知らせないと伝わらない為、落ちのないよう、副園長と声を掛け合っている。これからも常に「子どもにとって」「保護者にとって」を考えて、行事の計画やお便り作成を行うようにしたい。
保護者へ直接関わる機会は多くないが、気持ちのよい挨拶や個々の良いところ等、伝えていくよう心掛けてきた。
保護者の方々に関わる際は話し方や接遇等に失礼がないよう意識しながら関わった。送迎時に子ども達の成長を伝え、子どもの様子を共有することで喜びを感じたり、課題を一緒に考えたりすることを心掛けた。
保護者と接する際は、言葉遣いには十分気を付けて話をするようにした。また、伝達することがある場合は必ずメモをし、伝え忘れがないよう確認するようになった。
保護者に対しては常に公平に出来るだけその日の出来事等を知らせ、声を掛けるようにしていった。また担当の学年だけでなく、他学年の保護者にも声掛けを心掛けていった。保護者参加型の行事では、開催方法などコロナ禍でも工夫をしながら行っていくことができたが、子どもの成長を感じるにはより参観の時間が必要だと感じた。
迅速な対応を心掛け、丁寧に接することが出来た。
研修や行事を通し、保護者との連携の必要性を感じ、子供達の取り組む姿勢・成長を保護者の方に伝え、認めてもらうようにしてきました。保護者参加型の行事は、子供の成長を知る手段として情報を共有出来るよう、積極的に伝えていこうと思います。
子どもの園の様子等、なるべく平等になるように保護者に伝えるよう努めた。また、言葉遣いや分かりやすい言葉で伝えるよう心掛けたが、分かりにくい部分もあったため、改善していきたい。
個別対応が平等となるよう意識して行うことや、「話し方・伝え方・態度」がその場に望ましい感じであったか必ず振り返り、反省したことは即実行するよう心掛けた。他職員との共有も意識し、「報告・連絡・相談」を大切にしていきたい。
今年はコロナで保護者が参加する行事の縮小で協力してもらったり、保育参加等で普段の園生活を知ってもらう機会が少なかったように思う。それから、利用者満足度調査にもあったように園での様子が見えづらいとの意見があったのでより一層コミュニケーションを取っていきたい。
園の様子については、朝や帰りの時間で保護者に伝えるよう意識した。家での様子についてもこまめに聞き、保護者と情報を共有するようにしていった。
個別に必要に応じて、保護者との話し合いをしているが、個々に園に来て子どもの様子を見てもらう事はない。園の様子は保護者に丁寧に伝え、共有している。
保護者の方からの話しや相談に、最後まで話を聞くことを大切にしたい。昨年度取り組んだ「個人の尊厳を守る」ということを今年度も引き続き意識して行った。
子どもの育ちや姿を園と家庭で共有することの大切さを実感しているので対応には気をつけた。伝えるべき事を精査して園に対する信頼や安心感を得られるような対応を心掛けた。
どの保護者に対しても美しい言葉遣いで丁寧な対応を心掛けていく。

園児の長期欠席の際にあまり縁の様子を伝えられていないので、しっかり行っていきたい。保護者に対して今まで以上に的確な声掛けが出来るようにしていきたい。

保護者から信頼される保育者になれるよう、保護者からの相談には保護者の目線になって考え、話を聞くよう心がけた。自分の言葉には責任をもって保護者との信頼関係を築いていきたい。

保護者への対応は正しい言葉使いで正確に伝言を伝えることを心掛け、相談されたことも職員間ですぐ共有しました。

VI「地域の自然や社会とのかかわり」についての検証結果及び改善策

コロナ禍でできることをと工夫して行っている。
子どもたちの嬉しそうな表情が地域や社会との関わりで生まれ、貢献感がふくらむことを実感した。

地域の人材や施設などをもっと詳しく知る努力が足りなかったと感じる。地元の良さや特性を生かした保育ができるよう、散歩コースの開拓など、住民である保護者からの情報も得ながら進めていきたい。

畑の指導を頂く時は、積極的に関わるよう意識した。さやの家のクリスマス会を通して子どもと共にご利用者様との交流を楽しむことができた。地域の方との関わりを今後も大切にしていきたい。

・様々な行事で園外へ出掛けることも多く、地域に携わる機会が多かった。子ども達含む園の活動は多くの方の支えがあるからこそできる活動と感じた。
・来園するお客様や支援センター利用者の方を見かけたら気持ちの良い挨拶や、丁寧な対応をすることを心掛けた。

支援センターの利用者の方や来園した方、散歩等で地域の方にあつた際は、笑顔で気持ちの良い挨拶をするよう心掛けた。

コロナ禍であっても安全に配慮しながら、何だったら地域との関わりを持つことができるか考えていった。工夫しながら出来ることを最大限行えるようにした。
小学校との連携も子ども達自身の交流は難しいが、保護者からの情報も活用して園生活に取り入れていくようにした。(行事・学校生活などの様子等)

地域の方と関わる機会を増やし、繋がりを大切にする保育を心掛けた。

地域との関わりについて、園内の活動、掛川教育の日を通して、地域の方々の果たす役割が大きいことを感じました。地域との繋がりに関して、自分自身情報を知り、地域との関わりを大切にしていきたいと思えます。

小学校の行事、授業、保幼小連絡会等どのように行われているのかあまり知らない為、年長の先生に聞き、理解していきたい。

コロナの影響を受け、地域の自然や社会のかかわりの機会を設けることが難しかったが、機会があった時は工夫して行えた。クラスでザリガニを飼育しているが、生き物の世話の大変さを感じる。
ザリガニもクラスの一因として大切に育てられているのはよかった。

コロナの影響で外部の人と関わりを持ったり、交流する機会が減ってしまった。
コロナで子ども達の関わり幅が狭まらないよう工夫していく必要がある。

園周辺の公園や神社へ出掛け、どんぐり拾いや自然物集めを取り入れた。地域の方に会った時は、保育者が率先して挨拶する姿を示し、子ども達が自ら進んで挨拶できるような環境作りを心掛けた。

地域の自然に親しみ、世代間交流や行事に参加している。卒園児についても保幼小連絡会などで子どもの情報を得ることが出来、繋がりがあがる。

自ら、地域の方に挨拶をしたり、自然と関わったりする姿を子どもたちが見て、感じる事が出来るよう行動した。

直接的に関わる部門ではないが、地域でいつ誰に誰に見られていても大丈夫なように挨拶に気を付けた。

地元ではないので使用したことのない公共施設も多い。他職員にしっかりと情報を確認したうえで、使用していきたい。

卒園した子どもの情報を得たりできていない。卒園以降の生活につなげられるように今後の保育を考えていきたい。

小学校との連携についてはまだ知識がうすいため、理解を深めていきたい。感染症の影響で地域の人や施設のご利用者と関わる機会があまりなかったので感染状況が落ち着いたら関わる機会をつくっていきたい。

コロナ過であり、地域の行事や自然について保育に取り入れることが例年より少なかったと思います。

VII「研修と研究」についての検証結果及び改善策

カンファレンスの時間内での進行を心掛けているが工夫が必要と感じる。
専門職としての学びは必要と感じ意識している。しかし何が問題であるかを的確に捉え、学びに活かしていかなければならない。

研修に行かせていただき、得た内容を職員会議などで報告することはできたが、実践するところまではいかなかったことを反省する。主幹という立場を考え、自分で時間を作り出し、実践できるよう工夫を、担任と相談しながらしていきたい。

外部研修や園内研修に積極的に参加し、日々の保育を振り返りかつ、質の向上へと繋がるよう意識した。

園内研修やキャリアアップ研修等の研修へ参加することで、研修の場で学んだことを一つでも多く保育へ行かせるよう、日々行っている保育に当てはめながら保育の研修を受けることを意識した。

コロナ禍という事もあり、リモートでの研修や園内研修等に参加し、保育について、他学年との職員で意見を交換したり共有し、学ぶことができた。

参加できる研修は出来るだけ参加するようになった。そこで得た情報や学びは日々の保育に活用したり、他の職員と共有できるようにした。
しかし、自己学習の面では、日々の生活に追われ機会がとれないのが課題でもある。

園内外の研修に参加し、学びを実践にうつしていくことが出来た。

保育教諭としての専門性を高めるため、研修で学んだ保護者としての在り方・子供や保護者との関わり方について、保育の中で実践してきました。自分自身の行動を振り返り、課題を常に持ち、保育の質を高めていきたいと思います。

研修会の学びを活かし保育に取り入れようと心掛けた。子どもを取り巻く背景や実態を知り、それに対してどのような保育を取り入れるか考えていく。

保育の専門家として知識や技能を学ぶため、社内研修のほかに講演会や文献を読むなど積極的に自己学習している。じっくり学ぶことができる時間がなかなか確保できないが、スキマ時間をみつけて今後も学習をしていきたい。

コロナの影響で参加する研修が減った。研修が減って学ぶ機会が減らないよう自分で研究したり、学ぶ機会をつくったりする必要があったが自主的には取り組めなかった。
園内研修では身になる学びが多かった。

リズムや和太鼓の研修に参加できたことで、その活動のねらいや保育者として求められていることを考え、多くの学びとなった。今後の保育で実践していきたい。

保育教諭としての専門性を高める為、研修へ参加し、自己学習に努めている。日々の実践に繋げるよう、心掛けている。

テキストを使い、グループワークを行い、自分の気付かった新しい視点を他の職員から教えていただく良い機会となった。学んだことを日々の保育に生かしていきたい。

子どもたちの姿で対応に迷った時は書籍やネットで調べたり、他の職員と話し合ったり共有することもあった。保育の引き出しの少なさを感じてるので日々の中でアンテナを高くしたり、積極的に調べて質の向上を心掛けたい。

研修に参加し、内容を共有理解することで自分の学びとしてきた。
障がいのある子どもに対しての知識や保護者への発信にも力を入れていきたい。

園の道具や教材を全ては把握できていない。そのため直ぐに対応できるようにしっかりと把握できるように確認していきたい。

研修に参加して終わりではなく、研修で学んだことを保育の中に取り入れ、実行することができた。他職員と共有する機会がなかなかとれなかったため、共有して同じ方向性で保育ができるよう心がけていきたい。

研修などの学びは、他の職員の話の聞いたり、自己学習でいろいろ学べました。しかし、実践で学んだことを十分に活かさない場面もあり、問題の背景や原因についてもっと知りたいと思います。

「外部アンケート」からの検証結果及び改善策
職員がおたよりの内容を知らないときがあると意見があった。おたよりの完成と配布日が同じであると目を通せない為、余裕をもって作成する。 現場への伝え方で意図が変わると不信感につながることを自覚し、伝わる伝え方が課題である。
アンケートを取らせていただいたからには、小さなご意見・乾燥にも目を向け、日々の保育や行事の持ち方、保護者対応に活かしていくようにしなければ、と思う。そのためには、その都度、職員はアンケート結果や内容に目を通し、内容を把握・反省したうえで次にむかえるようにしたい。
コロナ禍でありながらも、保護者の方が行事や保育の様子を見たり、体感したりできる場を設けることで、園運営への理解も深まったと感じた。
様々な行事を終えるごとに保護者のアンケートの結果を確認すると、子ども達の成長を喜んでくれている意見が多く、嬉しく思った。一方、「こうしたらよいのではないか」等の保護者目線の意見を頂くことで、保育者が気付かなかった部分もあった。保護者から頂いた意見を活かしながら、今後の保育を計画していきたい。
新型コロナウイルス感染症が流行している中、行事等を開催していただき嬉しかったという温かい言葉が多く、嬉しさを感じた。子ども達の成長を保護者と一緒に共有していける行事作りや保育を行っていったら良いと感じた。
園児の気になる様子を保護者に伝える際、そこに至るまでの経緯や気持ちの揺れ動きなど丁寧に伝えていくこと。また成長しているところ、今意欲的に取り組んでいることなど具体的に知らせていきたい。個々の課題も成長の一つとして捉えてもらえる伝え方をしたい。
アンケートを通して、よかった点、改善点が目に見えて分かり、振り返る機会となった。
アンケートにて、保護者の方の気持ち、求めていることを把握し、気持ちに寄り添える対応をしていきたいと感じました。園の活動に関しても、協力していただくことに感謝の気持ちを持ち、連携してより良い保育活動を行えるよう努めていきたいと思えます。
運動会やクリスマス会で頂いた意見も参考にしながら今後の行事をよりよくするため、改善していきたい。
自分の気付かなかったことをしることができ、貴重な意見がいただけたと思う。改善できることは即実行を心掛け、難しいことは他職員と相談しながら改善策を立て、計画的に行うようにしていきたい。
コロナやIC化で子どもの園の様子についての情報が減ったという意見が多かった。 おたよりやブログ、掲示写真、本日の活動メール、送迎時に口頭で伝えたりしているが、保護者の需要と保育者の伝えたい事のズレがあることを感じ園からの情報を踏まえて家庭で子どもと会話をする機会も少ないように感じる。園での様子を家庭でも楽しさの共有ができるような伝え方をしていきたい。
利用者アンケートより、「園の様子が伝わりにくい」という意見があった。ブログや活動表・掲示写真も採り入れているが、担任や職員から聞きたい保護者の方も多いと思うので、今後も子どもの様子を丁寧に伝えていくようにしたい。
コロナにより、玄関の受け渡しだったり、時間が取れない事もあり、子どもの様子が保護者に伝わりにくかった。保護者へ丁寧に伝え、子どもの様子を共有することに努める。
アンケートの中で「子ども達の育った姿が嬉しい」という言葉を頂き、本当に嬉しかった。アンケートから学んだことも大変勉強になった。
日々の努力を労わるような有難いご意見もあれば、厳しいご意見もあった。真摯に受け止め改善できるものは今後活かしていきたい。
職員の話し方や挨拶のしかたについてのご意見が多かった。職員間で保護者への対応について再確認し、わかりやすく、はっきりと話すことを意識するよう周知した。

「若い職員が暗い」というようなアンケートが来ていたことがあったので私は常に明るく子どもや保護者に対応しているつもりだが今まで以上に明るく元気に対応していきたい。

保護者からのアンケートをとることで、保育者側からの視点とは違った視点での気付きがあり、貴重な意見をいただくことができた。改善すべき部分は職員間で話し合いをし、次回へつなげていきたい。

保護者からのアンケート結果は嬉しいお言葉は励みにし、反省する所はしっかり考えて行きたいです。